

一般研修開催

「失語症者と話そう」

講師: 老年病研究所附属病院 言語聴覚士 平野哲氏

平成23年11月19日(土)に老年病研究所附属病院にて研修会が行われました。

今回は「失語症者と話そう」と題し、コミュニケーションを取ることが困難な方との意思疎通を図るヒントや工夫について講義が行われました。講師は当院の言語聴覚士・平野哲氏が担当し、その内容は実際に私達が遭遇するような身近な生活場面を取り上げたものが多く、その様子を想像しながら話を聴くことが出来ました。

参加者は失語症の方と接する機会の多い医療従事者の方々が大勢参加されており、講師の話に熱心に耳を傾けている姿が見られました。

講義は失語症の症状・種類など基礎的な部分から始まり、失語症者の言語理解の状態や発症となる要因など、〇×クイズを交えながら楽しく学ぶことが出来ました。参加者からはクイズの答えが告げられるごとに感嘆の声が上がリ、また知らなかった内容に関しては真剣に説明を聞く様子も見られました。

講義の中で最も活発な様子が見られた場面は、参加者が失語症者の擬似体験を行った場面です。2人1組になり、質問者役が失語症者役の伝えたい言葉を当てるといったものです。失語症者役の方は言葉を発する

ことが禁止され、うなずき、首振りのみでの意思表示のため質問者役の方も相手が伝えたい言葉を引き出す事に苦戦している様子でした。しかし、講師から「質問は広い内容から狭めてゆき少しずつ内容を絞る」というコミュニケーション時の工夫を教えて貰うと、それまでとは違いスムーズにやり取りが行えるようになりました。

このように失語症の方との会話をする際のポイントを知る事で、意思疎通が円滑になる様子を目の当たりにしてとても驚きました。

今回の講義で印象深かった言葉として、「お互いに言葉のやり取りが行えなくとも相手の伝えたい気持ちをくみ取り理解を示してあげる事・一緒に会話が出来ないことを残念に思っただけが大切」という話がありました。このことから、言葉では伝わらなくとも気持ちを示すことでお互いに通じ合う部分もあるのではないかと感じました。

失語症の方も相手に自分の思いが伝わらず歯痒い思いをされている事が多いかと思えます。今回の研修会を通して、私達が失語症を理解しコミュニケーションの工夫やポイントを覚えることで、より充実した楽しい時間を共有できるのではないかと感じました。



写真：講義の様子



写真：模擬体験の様子

第4回介護予防まつり in まえばし開催

～ピンシャン！元気で明るいまちづくり～

平成23年11月27日（日）に前橋市総合福祉会館にて、『第4回介護予防まつり in まえばし～ピンシャン！元気で明るいまちづくり～』が行われました。第4回となった今回は、講演会や川柳コンテスト、介護予防サポーター活動内容のパネル展示、体力測定・健康チェックのほかにインナースクエアにおいては手話コーラスや車椅子ダンス等が披露されました。

メイン会場では高木政夫前橋市長による開会宣言に続き講演会が開催され、日本レクリエーション協会の小山亮二先生による『心と身体を元気にする魔法のコツの体験』～楽しくレクリエーション～が行われました。午後からは元気な高齢者の毎日をテーマとした『まえばしシニア川柳コンテ

スト』が開催され、多数あった事前公募の中から市の職員で入賞作品を選び、当日投票により大賞作品を決めるといった内容でした。日常を面白おかしく詠んだものから、元気の秘訣を詠んだもの等あり、『おばあちゃん と、呼ぶあんたは 孫じゃない』が大賞作品に選ばれました。

イベント会場での『体力測定・健康チェック』では骨密度や血管年齢等の測定が行われました。日頃測定する機会がないものがあり、多くの来場者の方が興味深く測定されていました。

今回は750人を超える方々が参加され、楽しみながら介護予防について考える機会になったのではないのでしょうか。



写真：講演会様子



写真：体力測定様子

豆知識

今回のシリーズ「**自助具を作ってみよう**」
2回目の今回は**爪きり**について紹介します。
爪きりって意外に普段の生活の中で見落としていませんか？

<適応> 麻痺は軽度だが、普段爪切りを手に持った状態で爪を切るのが困難な方。

<使用方法> 机上などに置いて使用します。写真を参考に。

<材料> ①市販されている爪きり(ケースがついているもの)

②台座となる木片

<作り方> ①台座に爪きりケースをボンドなどでくっつける。

(もし取れてしまう時はケースに穴をあけ釘などで固定します。)

<注意点> ①麻痺が重度で両手を使用する事が困難な人は対象ではありません。

②感覚障害がある場合、爪を切りすぎてしまう危険性があり注意が必要です。



今年もよろしく
お願いします！！



編集後記

昨年中は、大変お世話になりました。今年も皆様に役立つ情報をお届けできるよう頑張ります。